

～法人合同職員会議(2020年度向け)

2019年度園内研修発表会特集～

2020.2.2

恒例の島田福祉会全園の常勤職員による合同職員会議を行いました。理事長からは次年度の事業計画・職員体制についての説明があり、職員は各園それぞれに今年度の園内年間研修の成果を発表しました。法人の今年度の成果と次年度の抱負をご覧ください。

2019年度各園園内研修発表&移管スケジュール(北六丁目)

5園の研修発表(北六丁目は、移管に向けての流れを園長が紹介しました)を行った後、各園長からの職員紹介、理事長からの永年勤続表彰、法人次年度体制、次年度事業計画の提示がありました。自園の1年間の学びを検証すること、他の園の学びを共有し、自園の運営に役立てること、次年度から取り組む中長期の課題を認識し、次年度に関して具体的な運営の基本方針を知ること、4月から共に働く仲間の顔を互いにできるだけ覚えること(全員覚えるのは無理ですが、法人常勤職員が全員集まるのはこの1回しかない)が合同職員会の目的です。



午後は各園の合同MTの打ち合わせから始まり、各園に戻っての園職員会と、例年ハードスケジュールの1日ですが、様々な学びや刺激を受けた後での各園会議は有益な議論となるようです。特に他園の研修報告を聞いた直後なので、「来年はうちの園でも〇〇園の内容で勉強してみたい」という声もよくあがります。



研修発表資料(島田)

永年勤続表彰・法人特別表彰

法人内で勤務を継続していること、一定以上の評価を継続して受けてきたことを基準として、今年度も勤続10年4名、勤続20年以上5名の職員が表彰されました。対象者には祝い金とリフレッシュ休暇が付与されますので、日頃運営の中心となっている職員が長期休暇を取ることが多くなりますが、この不在期間が、後に続く職員達の責任感や自負心の芽生えにつながってくれることを期待しています。

そして毎年ではありませんが、表彰に値する職員の業績を紹介する「特別表彰」。今年は他職種から保育士資格を取得した職員の向上心をたたえて贈られました。日常業務の傍ら資格試験に挑んだことに対して、会場からは自然に大きな拍手が起きていました。



2020年度の重点課題

2018年度末から検討や手続が始まっている、大森北六丁目保育園の運営終了と、島田福祉会設立50周年記念事業の実施、そしてそれらをなし終えた先に見えてくる、2021年度以降に向けての新たな長期計画の策定が重点課題です。保育情勢、感染症、オリンピック等々不確定・不安な要素は多々ありますが、地域福祉の担い手としての自覚を持って取り組んでいこうと考えております。

北嶺町第二保育園

「子どものつぶやき、子どもの姿から読み解く、保育士との応答的な関わり」をテーマに園内研修で学び合いました。主体的な学びは、保育士指導型の保育では、子どもの興味関心を引き出せない。主体的に対話的な深い学びの実現をどのようにしていけば良いのか？乳児期から継続的に保育をする必要があると考え、子どもたちの仕草や言葉から子どもたちの興味を意識的に見つけ出す所から始めて見ようと思い、応答的な関わりをテーマにしました。毎月、クラス、給食からこどものつぶやきを出してもらい、閲覧し、保護者に見てもらい共有しました。また、各クラス、食育活動を通し、子どもの様子から発展した応答的な関わりを発表していき、職員で共通理解し、成長を確認し合いました。子どもの遊びに積極的に参加し、見守ったり、子どものつぶやきに耳を傾けるようになり、距離が縮まり、子どもの興味関心のあるものは何か？を考えるようになりました。寄り添いながら、応答的な保育や、子ども同士で意見を出し合える姿も多くなりました。職員の質の向上に繋がりました。他クラスの様子がわかり、勉強になった。子どもたちが自分の言葉や仕草で意思を表すようになり、日々の保育の取り組みが保護者や地域来園者にも知ってもらえる機会になりました。



北嶺町保育園

今年度の園内研修は「**ままごと遊びを通して環境設定を考える**」をテーマに進めていきました。

園内にある玩具の整理や保育室の環境設定を考えました。子どもたちにとって身近なままごと遊びを通して必要なものをそろえたり、片づけしやすいような環境設定を子どもたちと共に工夫したり、子どもたちのつぶやきから制作遊びやごっこ遊びを発展させました。幼児クラスでままごとデーを設け、異年齢交流の時間をつくり、ジュース屋さん、チョコバナナ屋さんなど、自分たちで品物や衣装を作成し、イメージを広げ、お店屋さんごっこに広げることができました。子どもたちが主体となって保育を進めていくことの大切さを子どもたちの姿から職員も学ぶことができました。



大森北六丁目保育園

本園では、令和2年度末で島田福祉会による運営が終了となるため、その経緯やこれからの取り組みについて報告しました。大田区と建て替えに向けた協議を行ってきたこと、地歴調査の結果、園敷地に土壌汚染の可能性があることといった、運営の返上に至った経緯を説明しました。また、大田区により、プロポーザル方式による運事業者の公募を行い、HITOWA キッズライフ株式会社に決定したことを報告し、引継ぎや今後の保育にも全力を注いでいくことを表明しました。

最後まで、あかるくたのしく！

あと1年、職員みんなで、子どもたちと、明るく楽しくがんばってやっていきます！



大森駅前保育園

テーマは、「話し合いから決定へのプロセスを学ぶ」。業務における「話し合い」には、結論を出し、それを業務に落とし込むことが求められます。現実のさまざまな制約や他の職員の考え、それぞれの職種の事情など、たくさんの要素を並べ、それぞれの重要性やそれぞれの思いを出し合いながら決めていくプロセスを全員で経験したことで、その結果としての行事や遊びの環境の向上や新たな課題についての「当事者意識」が強くなりました。多くの話し合いの中で得られた相互理解も、今回の大事な成果です。



島田保育園

テーマ『保育環境の見直し』。昨年度は、「子どもの声かけ、関わり」について学び、主に人的な環境の見直しに取り組みました。今年度は、昨年度の学びを継続しつつ、「あそびの環境の見直し」に取り組んでいきました。各クラス、担当それぞれが課題をもち、研修に臨みました。

保育室は子どもの状況に合わせて、コーナー作り、おもちゃの取り出しやすい環境づくり、絵本の環境の見直し、子どもが主体的に遊ぶ環境づくり、パーソナルスペースづくり、早番・延長番の縦割りでの関わり時の環境づくり等々を行なったことで、子どもにとって”主体的な遊びの環境“ということを念頭においた保育の展開を、より意識するようになりしました。また、それをわかりやすく保護者に伝えたことで、保育環境を変えることで子どもの発達、成長に、どう影響があるのかを知らせたり、育児がやりやすくなる方法を伝えることができ、家庭での遊びへとつなげることができたことが大きな成果となりました。

